

第5回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

【行政評価検証専門部会】

日 時	平成23年11月11日（金）午後1時～5時
場 所	北上市市民交流プラザ
出席者	(1)委員 4名 佐藤徹部会長、岩渕公二委員、高樋さち子委員、和田明子委員__（西出順郎委員欠席） (2)事務局 (3)担当部課職員
傍聴者	なし

1 議題

- (1) 外部評価シートとりまとめ（案件1～3）
- (2) 各委員の評価内容の確認、意見集約（案件4、5）
- (3) 部会総括

	対象案件
1	施策①高齢者が活躍できる場の確保について
2	経営改革（公の施設の見直し）の考え方について
3	夏油保養温泉専用水道の対応について
4	下水道事業の経営について
5	施策②子育てと仕事の両立の支援について

2 会議の概要及び主な意見等

案件1～3について、委員会としてとりまとめた外部評価シートの最終確認を行った。また、案件4～5について各委員の評価内容の確認と部会としての意見集約を行った。

最後に今年度の部会総括として意見交換を行った。

(1) 施策①高齢者が活躍できる場の確保について

[主な意見等]

・老人クラブへの補助については、高齢者施策の中での他の団体との公平性ということではなく、広い意味での他の団体との公平性というこちらの意図が伝わるような表現の方がいいのではないかと感じる。

・施策の成果指標が、構成している事務事業の成果指標の中から選定されているので、既存の事業ありきになってしまっているのではないかと感じる。

(2) 経営改革（公の施設の見直し）の考え方について

[主な意見等]

- ・具体的な施設の見直しについて地域と協議を進めていく前に、市でどこまで具体的な検討が加えられるかが見えてこない。この委員会が出された意見についてどのように検討がなされたのかの回答があって、その後地域へ協議に入っていってほしいというのが希望である。
- ・複数の視点からさらに検討を加えることを条件に「概ね妥当」だという認識なので、付帯条件の部分をしっかり明示するような記述がよいのではないか。

(3) 夏油保養温泉専用水道の対応について

[主な意見等]

- ・市の観光面等の位置づけをふまえて経営主体を検討すべきという意見があって、それとは別に納税者である市民の視点での説明が必要だという意見もあるということなので、分けて記載する方がよいのではないか。

(4) 下水道事業の経営について

[主な意見等]

- ・内部評価から切迫した状況であることは伝わってくるが、市としてどのような改善策に取り組もうとしているのか、今後の経営のあり方についてどのような考えで進めていくのかが明確になっていないと思われる。収益構造上、事業運営上の課題が何なのかを明らかにしておくべきではないか。
- ・根本的な課題に対する市の方針を作る必要があるのではないかと、という付帯意見が付く形にならざるを得ないのではないかと思う。
- ・特定公共下水道に関しては、誘致した企業と議論する必要はある。結果として今まで通りになったとしても、議論をした上で値上げに応じる市民のコンセンサスを得られる形で進めなければならない。
- ・地域間格差をなくすためにこれまで普及を続けてきたということは評価できる点だと思う。ただその時にどういう負担があるのかという説明をせずにきてしまっていることが今の問題につながっているので、過去の経緯と現状の課題の両方をしっかり説明していくことが、今下水道を使っている市民への説明責任になるのではないか。
- ・今後の下水道事業の在り方を見直しや経営の抜本的な見直しが必要であるという表現を冒頭に持ってきた方がよいのではないか。今後の事業の在り方も検討する必要があるということが表現として見えた方がよい。
- ・この案件が評価になじまないのではないかと意見があったが、それも入れてもいいのではないか。

・5件の案件の中では最も荷が重い案件だった。市民生活に重要な影響を及ぼす案件でありながら、ここでの意見が市側を拘束したり義務を課したりするものではない中で、補助金や料金の見直しが妥当であるという判断を下していいものかというところが皆さん悩まれたところだと思う。そういった部分を全体の総括の中でも触れた方がよいのではないか。

(5) 施策②子育てと仕事の両立の支援について

[主な意見等]

- ・成果達成状況の評価としては、これまでの待機児童の推移を見ると「概ね順調」とまでは言えないのではないか。
- ・施策において外部要因はこの分野に限らず含まれるものなので、そうした部分をふまえてどう効果的に事業を展開しているかを評価することだと思う。結果が出ていないから努力が足りないという短絡的な議論ではない。
- ・「市民」の定義が明確になっていないのではないか。ここでいう「市民」が利用者を指すのだとすればアンケートをふまえてやっているという説明ができるだろうし、保育サービスを受けない人も含めた「市民」ということであればこのアンケートだけでは不十分ということになる。評価シートそのものの整理が必要ではないか。
- ・細かい記述を要するものと、大きくまとめるところが混在していて、記述が重複することになってしまうという（シート自体の）問題があるように感じる。
- ・事務事業を評価するとなると、もっと細かい部分を聞かないと評価できない。ある程度事務事業の内部評価が妥当に行われている前提でないと（限られた時間の中では）評価できないと思う。

(6) 部会総括（評価全般について）

- ・委員個人で記入するシートは公表されないということであれば、もう少し簡素化してもいいのではないか。委員と担当課の職員が議論できたことは機会としてよかったのではないか。内部評価の手法について気付きを得られたと思うので、部署を一回りするとも内部評価そのものもレベルアップしていくと思う。
- ・施設に関するテーマの場合、私たちは市内に住んでいないので言葉だけではイメージできない。地図やパワーポイントでも構わないので、その地域の情報を示してもらえるとイメージしやすいし、必要に応じて現地調査も行うべきではないか。
- ・期間が短かったせいか、ボリュームが多いと感じられた。
- ・件数だけ見れば少なかったと思うが、重要課題は評価が難しかった。
- ・構成する事務事業の評価は、客観的に確信を持って妥当と言いきれない部分があるので正直難しいが、やらないよりはやった方がよい。本来総合計画の策定のプロセスで議論し、整理されているべきものだが、十分な議論ができないことが多い。

- ・内部のヒアリングに外部評価を活用するという方法もあるのではないか。業務量的にどこまで広げられるのかという問題はあるが、外部評価の狙いを明確にしながら手法のひとつとして検討してもらえればと思う。
- ・重要課題は評価になじまないと思う。短時間の議論で結論が出せるものでないし、何より最終的には政治判断の部分だということ。
- ・確かに行政側からの情報に偏っていると感じるところがあった。（市民が）どの程度そう感じているかが分からなかった。
- ・今回やってみて内部評価の手法に対するアドバイスが多かったように思うので、その部分に限定したやり方もあるのではないか。専門的な視点から内部評価に対しアドバイスを行うという位置付けで全ての部署が一巡すれば、内部評価そのものの精度も向上し、結果として有意義なものにはなると思う。
- ・総括コメントとして付帯条件を付けているものがあるが、この部分は部会として重要な位置づけである。ここをどう対応したかが分かるような方策を講じていただきたい。